

## 事例研究～中国ビジネス法務

北京市大地律師事務所 / 日本部  
パートナー弁護士 法学博士 熊琳

## 第204回 今年のCCTV「315晚会」

中国中央広播電視総台（CCTV）は、今年も例年通り3月15日に世界消費者権利デー特番の「315晚会」を全国放送しました。この特別番組はすでに大きな影響力を持ち、企業からも注目されているもので、今年も放送後に全国でさまざまな反響があり、各地政府による迅速な取り締まりの動きもありました。今年の放送内容から、特に注目された内容をご紹介します。

## ◇2022年「315晚会」の内容

今回の「315晚会」で取り上げられたケースは全13件に上り、9件程度となることが多い例年を上回りました。事案の類型と内容は以下の通りです。

## 1. 最も多かったインターネット関連事案：7件

(1) ネット配信企業の男性運営者が女性を装ってファンとやりとりし、ギフトングをするよう仕向けたりして高額の利益を得ていた。

(2) ヒスイのアクセサリーを販売するライブコマース運営者が虚偽の専門鑑定士を名乗り、従業員を使って虚偽の値切り交渉を演出したり、仕入れ価格を偽ったりして消費者をだまし、廉価なヒスイ商品を高値で販売して高額の利益を得ていた。

(3) 消費者が企業の評判を確かめるためにネット上の情報や利用者の評価、コメントなどを検索しても、専門業者が利用者を装って捏造（ねつぞう）したレビューばかりが表示され、委託者に有利な宣伝効果をもたらしている。

(4) 専門サイトを通じてソフトウエアをインストールすると、不要なソフトがついてきたり、広告が表示されたりし、時にはパソコンがフリーズすることさえある。原因はそれらのサイトの「高速インストール」リンクが、複数のソフトウエアをセットでインストールさせる罠（わな）となっていることである。

(5) スマートフォンでサイトを閲覧した際に電話番号を知らせたわけでもないのにセールス電話がかかってくる原因は、業者が技術手段を使って利用者の電話番号を取得しており、その電話番号を利益目的でセールス業者に売却しているためである。

(6) 「無料Wi-Fi」を提供するアプリには、偽装広告にリンクされているものがあり、利用者がクリックすると偽装リンクの広告アプリが自動的にインストールされる仕組みになっている。

(7) 廉価な子ども用スマートウォッチには、古いバージョンのOSが使用されているためにスマートウォッチをリモート操作できる悪意のプログラムが入り込みやすくなっているものがある。このプログラムでは位置情報がリアルタイムに取得できるほか、移動歴、顔データ、録音などのプライバシー情報が常に収集され、活動範囲が簡単に確定できる。

## 2. 依然注目度の高い食品安全分野：2件

(1) 酸菜（漬物）の製造業者で、輸出商品には標準の製造槽を使用していたが、国内向けに製造する即席麺の付帯パック用の製品は、衛生標準に適合せず衛生検査も受けていない露地の設備で製造し、防腐剤の使用量も基準を超えていた。

(2) あるでんぷん麺の製造業者が販売する「サツマイモ春雨」「ヤマイモ春雨」は、実際にはトウモロコシとキャッサバのでんぷんを混ぜて作ることで生産コストを下げていた。

### 3. 製品品質、人身の安全に関する事案：3件

(1) 電動自転車の法定制限速度は時速25キロとされているところ、販売店がメーカー提供の解除機能を使って速度制限を解除し、実際には時速40キロほどに達するものになっていた。

(2) 一部の零細ケーブルメーカーは、銅線の使用量を減らすなどして国家標準に適合しない廉価なケーブルの粗悪品を生産している。そのように生産されたケーブルレジスターは国家標準を35%以上も超えており、安全性リスクがある。

(3) 一部の研修機関では、全くの未経験者でも費用を支払えばわずか1週間の研修で「微整形美容師高級証書」が発行される。このような資格取得者が消費者に美容医薬品を注射して終身傷害を負わせた例も少なくない。

### 4. 未成年者の保護に関する事案：1件

小学校の周辺にある文房具店や雑貨店で児童用に提供されているさまざまなくじ引きゲームの景品には、製造者が不明で品質保証もない粗悪な商品が使われていることが多い。自制心のない児童がくじを引くことに熱中し、小遣いをつぎ込んでしまうことは問題である。

#### ◇日系企業へのアドバイス

昨年までと同様、今年も「315晚会」が放送されると、各地の政府所管機関が直ちにに取り組みを行い、関連企業に対する調査や処罰が行われたことから、メディアが政府の法執行活動に及ぼす影響には依然として顕著なものがあります。今年報じられた中で外資系企業を取り上げた事案はなかったものの、インターネット、食品安全、製品品質、人身の安全、未成年の保護などは、日系企業でも特にコンプライアンスを重視すべき領域となります。

## 寧波方正、比克電池から精密部品を受注＝浙江省

中国ニュースサイト、証券時報網によると、深セン証券取引所の新興企業向け市場「創業板」に上場する自動車金型メーカー、寧波方正汽車模具（浙江省寧波市）は10日、電池メーカーの深セン市比克電池（広東省）から、車載やエネルギー貯蔵システム、電動工具向けリチウムイオン電池用精密部品を受注したことを明らかにした。

寧波方正は2022年度に4680型バッテリーなど向け精密部品約3000万個を納入する。また、23年からの3年間で同製品を年間で少なくとも4億元（約79億円）相当受注する見込み。

寧波方正は今年6月、新規株式公開（IPO）を実施したばかり。現在は安徽省巢湖市で工場建設を進めており、一部設備を試験稼働させている。順調なら来月にも正式稼働し、納入を始める見込み。（上海時事）

## 《蘇州・江蘇省》

### 竜蟠科技、正極材工場に19億元＝江蘇省

中国ニュースサイト、中国証券網が11日までに報じたところによると、上海証券取引所上場の自動車用潤滑油メーカー、江蘇竜蟠科技（江蘇省南京市）はこのほど、湖北省襄陽市に進出し、車載リン酸鉄リチウム電池用正極材を生産する方針を明らかにした。

投資額は19億元（約374億円）。2期に分け建設する。年産規模はリン酸鉄が5万トン、リン酸鉄リチウムが10万トン。このうち第1期工場の工期は6カ月で、リン酸鉄（年産2万5000トン）と、リン酸鉄リチウム（同5万トン）を生産する。

同社は複合肥料メーカーの新洋豊農業科技と組み、湖北省鐘祥市でリン酸鉄の共同生産を進めている。一部設備は既に試験稼働している。（上海時事）